小児看護方法論におけるアクティブ・ラーニングの検討
－小児看護学実習事前学修として，ポートフォリオの導入を試みて－

山口　真理，原田　美智
了徳寺大学・健康科学部・看護学科

要旨

小児看護方法論を履修する3年次生115名を対象に,ポートフォリオ導入前後で質問紙調査を実施した.ポートフォリオ終了後の調査では,「とても楽しかった」などの前向きに捉えている回答が43名(38.1%),「負担だった」などの否定的な振り返りの回答は30名(26.8%)であった. 学修状況については導入前後で変化はみられず,課題がある時のみ学修をすると回答した学生が半数以上と最も多かった.自由記載内容からは,プラスの効果を示す【学修に対する気持ちの変化】,【学修面の気づき】,【学修の変化】,【ポートフォリオの利点】の4カテゴリー ,マイナス評価を示す【学修の負担】,【効果の不透明性】,【アクティブ・ラーニングの未理解】の3カテゴリーが抽出された.ポートフォリオ導入前後で小児看護学への学修意欲の変化はみられなかった.

ポートフォリオは,能動的に学修するきっかけとなりうる.初年次より導入することで,学修への負担感は減少し,生涯に亘って学び続ける看護職に必要な学修のきっかけとなることが示唆された.

キーワード：小児看護学，アクティブ・ラーニング，ポートフォリオ

Study on active learning about child care methods
− Introducing a portfolio for practical training on child care −

Mari　Yamaguchi　Michi　Harada
Department of nursing, Faculty of Health Science, Ryotokuji University

Abstract

A questionnaire survey was conducted on 115 3rd-year students studying child care before and after the introduction of a portfolio.

43 respondents (38.1%) provided a positive response, such as “it was very fun,” during the survey after the completion of the portfolio, while 30 respondents (26.8%) provided a negative response, such as “it was a burden.” No changes were seen in terms of the situation surrounding studying before and after the introduction, and the most commonly seen response was “only studying when there are problems,” as more than half of the students provided this response. In the free-response section, 4 positive categories, which were “changes in feelings about studying,” “discoveries about studying,” “changes in studying,” and “benefits of the portfolio,” and 3 negative categories, which were “the burden of studying,” “lack of transparency about effects,” and “lack of understanding about active learning,” were extracted. No changes were seen in the desire to study pediatric nursing before and after the introduction of a portfolio.

A portfolio can serve as a catalyst for studying actively. It was suggested that introducing a portfolio during the first year could reduce the feeling that studying is a burden and encourage a lifetime of studying, which is essential for working in health care.
Keyword : pediatric nursing, active learning , portfolio

Ⅰ．緒言

近年，わが国においてはグローバル化や少子高齢化，情報化という急激な社会変化がある．その時代背景を踏まえた学士課程教育には，質的転換への急速かつ効果的な取り組みが求められている．文部科学省は課題解決型のアクティブ・ラーニングといった学生の思考や表現を引き出し，その知性を鍛える双方向の授業を中心とした質の高いものへの転換を求めている[1)]．看護系大学においてもアクティブ・ラーニングは導入されてきており，その学修効果についても報告されている[2)3)]．アクティブ・ラーニングは，生涯を通して学修が必要な看護職の専門性の点からも重要となり，看護系大学学士課程に求められるコアコンピテンシー[4)]にも繋がることと考える．

本学3年次の後期科目に小児看護学実習がある．病棟での実習期間は5日間であるが，必要な基礎知識が身についておらず，貴重な実習時間であるが有効な学びにまで到達できない学生も多い．また，臨床指導者からも多分に知識等の不足の指摘を受けることも多い．しかし，臨地で基礎知識を振り返り学修する時間はない．そこで，小児看護学実習以前の3年次前期科目である小児看護方法論にて，実習の際に必要となる基礎知識の定着を図ることはできないか検討した．その結果，学生自身が能動的に学修することが効果的ではないかと考え，ポートフォリオを導入した．シラバスにおいて既に決められている授業内容とは別に，課題の一環として取り入れた．

本研究では，小児看護学実習に向けて基礎学力の定着を図る教育方法の確立として，アクティブ・ラーニングの一つでもあるポートフォリオの導入を試みた．導入前後の学修状況や学生の意識の変化に着目し，教育効果を検証した．そして，小児看護学教育の基礎資料とすることを目的とした．

Ⅱ．科目の構成

小児看護方法論は，看護学科3年次前期30時間（2単位）で配当されている専門必修科目である．

Ⅲ．研究方法

1．用語の定義

1）ポートフォリオ

課題の用紙とそれに付随して学生自身が調べた資料等を併せて綴じ，使用するファイルとした．

2）課題

小児看護学実習時に必要とされる基礎的な解剖学や生理学の既修内容中心に，書き込み式ワークシートとして3から5枚の用紙を作成し，課題として配布した．

2．実施期間と対象

1）実施期間

2021年4月から2021年7月

2）対象

2021年度看護学科3年次に在籍し，小児看護方法論を履修した学生

３．実施方法

１）小児看護方法論の初回授業において，質問紙調査をおこなった.

２）初回授業時に，2穴ファイルを配布した．ポートフォリオ学修について，以下の通り，口頭および紙面にて説明をおこなった.

⑴ポートフォリオ学修は，授業の評価には含まず任意の学修であること

⑵ファイリングの方法

⑶資料の出典の記載方法

３）能動的に学修を進めるきっかけとして，課題を3回に分けて配布した．(4月，5月，6月)

４）課題及び，調べた資料を綴じたポートフォリオは，他の科目の学修や課題もあるため学生の負担も考え，2～3週間の期間を空けて提出させた.

５）小児看護方法論の最終授業において，振り返りの質問紙調査をおこなった．（表1-1，1-2）

表1-1　ポートフォリオ導入前質問紙内容

1.「ポートフォリオ」を知っていますか。
2.「アクティブラーニング」を知っていますか。
3.今の小児看護学への学修意欲はどうですか。
4.昨年1年間のおおよその自己学修時間(1週間あたり)はどうですか。

表1-2　ポートフォリオ導入後質問紙内容

1.「ポートフォリオ」について、理解できましたか。
2.「アクティブラーニング」について理解できましたか。
3.「ポートフォリオ」の学習は、他の学修方法と比べてどうでしたか。
4.今の小児看護学への学修意欲はどうですか。
5. 2021年度前期の学修時間（1週間あたり）はどれくらいですか。
6.ポートフォリオを通した学修に関する自己の変化（自由記載）

４．分析方法

ポートフォリオ導入時と，ポートフォリオ終了時に実施した質問紙調査について，内容はコード化し，データはExcel2016を用いて単純集計した．ポートフォリオ導入前と導入後で比較検討する一部の項目の結果については，χ2乗検定をおこなった.

自由記載内容については，内容を細分化したのち，コード化した．効果の有無の観点からカテゴリー化した.

５．倫理的配慮

本研究は，了徳寺大学生命倫理委員会の審査を受けて遂行の承認を得た（受付番号21-19）．対象学生には，2回の質問紙調査の際に口頭及び紙面にて研究の趣旨を説明し，同意の得られた学生のみに実施した．質問紙は記名式としたが，照合後は記号化し個人が特定できないように匿名化を図った．なお，最終質問紙調査実施後1か月以内であれば研究協力の撤回ができることを説明し，撤回書を配布した．撤回の意思については，授業評価には一切影響しないことも口頭及び紙面にて説明した．ポートフォリオ終了時の質問紙調査時に，同意の得られなかった学生の質問紙は削除した.

Ⅳ．研究結果

１．対象者の概要

科目履修学生115名のうち，同意が得られた学生は114名であった．調査時に欠席し回答が得られなかった学生1名を除いたため，対象者は113名（98.3%）であった.

２．ポートフォリオ導入前の学生の能動的学修状況について

アクティブ・ラーニングについて，「すでに知っており実際にやったことがある」が18名，「やったこと

はないが知っている」が7名,「言葉は知っていたが，内容までは知らなかった」が59名,「初めて聞いた」は31名であった.（表2-1）

ポートフォリオについて,「すでに知っており実際にやったことがある」は0名.「やったことはないが知っている」は1名,「言葉は知っていたが，内容までは知らなかった」は19名,「初めて聞いた」は95名であった.（表2-2）

表2-1　能動的学修の既修歴　n=115（人）

アクティブラーニングを知っていますか	回答数	%
知っている・やったことがある	18	15.7
内容まで知っている	7	6.1
言葉は知っていたが、内容までは知らなかった	59	51.3
初めて聞いた	31	27.0

表2-2　ポートフォリオの既修歴　n=115（人）

ポートフォリオを知っていますか	回答数	%
知っている・やったことがある	0	0.0
内容まで知っている	1	0.9
言葉は知っていたが、内容までは知らなかった	19	16.5
初めて聞いた	95	82.6

２．ポートフォリオを通した学修について

「ポートフォリオの学修は，他の学修方法を比べてどうでしたか」の質問に対し,「とても楽しく学修ができた」3名,「他の学修よりは楽しくできた」40名,「よくわからない」38名,「あまり楽しい学修ではなかった」16名,「負担だった」14名，無回答2名であった.(表3)

表3　他の学修方法との比較　n＝113(人)

項　目	回答数	%
とても楽しく学修ができた	3	2.7
ほかの学修よりは楽しくできた	40	35.4
よくわからない	38	33.6
あまり楽しい学修ではなかった	16	14.2
負担だった	14	12.4
無回答	2	1.8

３．学生の学修時間について

ポートフォリオ導入前の2021年4月において，昨年1年間のおおよその自己学修時間（1週間あたり）について調査した．勉強時間が「なし，全くしない」と回答した学生はいなかった.「課題がある時のみ」65名,「課題がなくても定期試験に関係なく30分から1時間以内」14名,「課題がなくても，定期試験は関係なく1時間以上学修していた」1名,「ほぼ毎日」2名,「定期試験前のみ」16名，無回答ならびに無効解答16名であった.

ポートフォリオ終了時である2021年7月の段階において，2021年度前期の学修時間（1週間当たり）について調査した．勉強時間が「なし，全くしない」2名,「課題がある時のみ」74名,「課題がなくても定期試験に関係なく30分から1時間以内」28名,「課題がなくても定期試験は関係なく1時間以上学修していた」3名,「ほぼ毎日」2名，無回答ならびに無効解答4名であった．なお，定期試験前の段階での調査であったため「定期試験前のみ」の選択肢は項目から削除した.（表4-1，4-2）

表4-1 昨年1年間のおおよその自己学修時間
（1週間あたり）n=115（人）

項　目	回答数	%
なし、全くしない	0	0.0
課題がある時のみ	65	56.5
課題がなくても、定期試験は関係なく、30分～1時間以内	14	12.2
課題がなくても、定期試験は関係なく、1時間以上	1	0.9
ほぼ毎日	2	1.7
定期試験前のみ	17	14.8
無回答・無効解答	16	13.9

表4-2　2021年度前期の自己学修時間
（1週間あたり）　n=113（人）

項　目	回答数	%
なし、全くしない	2	1.8
課題がある時のみ	74	65.5
課題がなくても、定期試験は関係なく、30分～1時間以内	28	24.8
課題がなくても、定期試験は関係なく、1時間以上	3	2.7
ほぼ.毎日	2	1.8
無回答・無効解答	4	3.5

2年次までの学修時間（表4-1）と比べ，3年前期の学修時間（表4-2）は，「なし，全くしない」が2名と増加したが，学修時間は増加傾向であった．

4. 小児看護学への学修意欲について

小児看護学への学修意欲について，ポートフォリオ導入前をポートフォリオ終了時に同じ質問をおこなった．ポートフォリオ導入前の学修意欲について，「大いにある」27名，「ややある」73名，「あまりない」9名，「全くない」0名，「わからない」5名無回答または無効解答1名であった．ポートフォリオ終了時の学修意欲については，「大いにある」19名，「ややある」74名，「あまりない」14名，「全くない」1名，「わからない」4名，無回答または無効解答1名であった．ポートフォリオ導入の前後での小児看護学への学修意欲の変化については，χ2乗検定を行ったが有意差はみられなかった（$p>0.05$）．（表5-1，5-2）

表5-1　小児看護学への学修意欲（ﾎﾟｰﾄﾌｫﾘｵ導入前）

	n=115（人）
大いにある	27
ややある	73
あまりない	9
全くない	0
わからない	5
無回答・欠損値	1

表5-2　小児看護学への学修意欲（ﾎﾟｰﾄﾌｫﾘｵ終了時）

	n=113（人）
大いにある	19
ややある	74
あまりない	14
全くない	1
わからない	4
無回答・欠損値	1

５．学生の自由記載内容について

ポートフォリオを通した学修の振り返りとして，ポートフォリオ終了時の調査紙には，自由記載欄を作成した．36名が記載していた．記載内容は，記載者がわからないように細分化し，コード化した．その類似性，異質性によって分類・集約し，カテゴリー化した．何らかのプラス効果となった内容，プラス効果が見いだせずマイナス評価となる記載内容の，相対する2つに分類された．プラスの効果となった自由記載には4カテゴリー，マイナス評価となる自由記載は3カテゴリーが抽出された．以下，カテゴリーを【　】，コード（実際の記述そ細分化したデータ）を＜　＞とする．（表6）

１）プラス効果となった自由記載内容

自由記載内容を分析した結果，ポートフォリオ学修は何かしらのプラス効果となった内容の記載をした学生は，29名であった．その記載内容を更に細分化し分析した結果【学修に対する気持ちの変化】，【学修面の気づき】，【学修の変化】，【ポートフォリオの利点】の4カテゴリーに分類された．

【学修に対する気持ちの変化】には，学修意欲を示す＜さらに勉強していきたい＞＜復習しようという気持ち＞のほか，楽しくポートフォリオに取り組んだという記載もあった．【学修面の気づき】は，自分自身を振り返り＜学修不足の自覚＞や，＜不足な点への気づき＞など，学修不足や知識不足といった気づきであった．【学修の変化】には，能動的な学修である＜気になったところを自分で調べる＞，＜学修教材を自己作成した＞，を含め11コードが抽出された．ポートフォリオ開始の段階では，ポートフォリオを知らなかった学生が多かったが【ポートフォリオの利点】は最大の20コードが抽出された．

２）マイナス評価となる自由記載内容

自由記載内容を分析した結果，ポートフォリオ学修はマイナスの効果であるとの記載した学生は10名であった．その記載内容を更に細分化し分析した結果【学修の負担】，【効果の不透明性】，【アクティブ･ラーニングの未理解】の3カテゴリーに分類された．

表6　ポートフォリオ終了時の自由記載内容

分類	カテゴリー	コード（　）は複数のコード数	
プラス効果	学修に対する気持ちの変化	さらに勉強していきたい(2)	学修意欲の上昇
		自己学修は楽しかった	復習しようという気持ち
	学修面の気づき	不足な点への気づき	得意不得意の把握
		自分に対する危機感	学修不足の自覚
		継続的な学修の必要性(2)	忘れている知識の気づき(2)
	ポートフォリオによる学修の変化	まとめ方への新たな気づき	学修教材を自己作成した(2)
		気になったところを自分で調べる	他の課題と共に頑張った。
		まとめ方への新たな気づき	よく学修できた
		自ら調べることで記憶に残ったことが多くあった	書籍、参考書を利用して学修するようになった(2)
		この先の学修でポートフォリオを生かしていきたい	
	ポートフォリオの利点	基礎知識の復習ができた(3)	小児看護について、よく学ぶ機会となった
		忘れていたことの振り返りができた（4)	ポイントがわかりやすくまとめられる
		知識・理解を深められた(5)	自ら学修する力がついた
		項目が指定されているのが良かった	自分で調べるので良い学修になった
		復習としても取り組めた(3)	
マイナス評価	学修の負担	あまり時間がとれない（2)	強制されて負担
		他の科目などの課題もあり、十分にできなかった(2)	計画的に行いたかった
	効果の不透明性	内容が難しくて理解できなかった	自分の変化はなかった
		もう少し基礎的なものだったら	個人で学修する範囲であった
	アクティブ・ラーニングの未理解	インターネットと文献からの学修の違いの無理解	半強制でやった
		意図がわからなかった	

Ⅴ．考察

１．能動的学修のきっかけづくり

二人として同じ患者はいない．看護師は同じ疾患，同じケアであっても，その患者のその状況にとって最適解の判断や行動を必要とする[5]．　そのため，看護師は生涯に亘って学修し続け，成長し続ける職業である．Active＝能動的な学修は，そのような看護師にとって必要とされる柔軟的思考や実践力の修得にもつながるのではないかと考える．

能動的に学修することの楽しさや，知識を得るために学修を深めていきたいというプラスの効果は，マイナスの評価より多かった．このことから，ポートフォリオ学修を通して学生時代より自分で何を学修すべきかを考え，実践していくことを学修する機会とはなっている．このことから，近い将来看護職に就く学生にとって，大切な学修のきっかけとなったといえる．

２．学修への負担感

マイナスの評価として，【学修の負担】や【アクティブ・ラーニングの未理解】という能動的な学修にはつながらず，受動的にやらなくてはいけないという意識で取り組んでいる学生もいた．全国学生調査（試行実施）[6]によると，80%の学生が1週間あたり1時間以上授業以外の学修をしている．本研究の2回の調査ともに「課題がある時のみ」が最も多く，それは半数以上の学生の学修状況であった．本学の課題が全国の大学と比較してどれほどの違いがあるかは不明であるが，明らかに自己学修時間が少ないといえる．このような学修状況の学生に，アクティブ・ラーニングを実施しても，負担と捉える学生がいても不思議ではない．

３．今後の学修の方向性

本研究は，小児看護学実習に向けての基礎知識の定着を図るため，3年次の学修に取り入れた．しかし，ポートフォリオを始めアクティブ・ラーニングを基礎看護科目の段階から取り入れている大学もある[7][8]．ポートフォリオの学びは，1つの教科で終わらせることなく，他の教科への発展・連携させ，基礎看護学教育として一貫した教育を行うことも重要である[2]．本研究の結果よりプラスの効果が示されたポートフォリオなど，アクティブ・ラーニングは初年次教育から実施し，継続的に実施していくことが望ましいと考

える.

Ⅵ. 結論

ポートフォリオの導入により，能動的な学修のプラスの効果を示す自由回答は，負担に思うというマイナス評価を示す自由回答より多かった．能動的学修のきっかけとして，ポートフォリオは有効であるが，初年次より何らかの能動的学修を取り入れるべきである.

Ⅶ. 本研究の限界と今後の課題

小児看護学実習の先修科目である小児看護方法論の教育として，ポートフォリオの導入を試みた．しかし，本研究ではポートフォリオが学生にとって有効な学修法となるのかを検証するに留まった.

実際に，小児看護学実習においてポートフォリオ学修がどのような効果を示すことについては，小児看護学実習以前の段階における研究期間であったため結果が導き出されていない．そのため，今後は小児看護学実習への効果について検証することが課題である.

謝辞

本研究に協力してくださった学生の皆様に深く感謝申し上げます.
先駆的に小児看護学教育にポートフォリオ学修を取り入れていており，その実績と効果についてご教授いただきました船橋市立看護学校菅谷周子先生，監物佳子先生，また結果の統計において，お忙しい中ご助言いただきました了徳寺大学西川哲夫教授に，深く感謝いたします.

なお，本研究に関連する利益相反事項はない.

引用文献

1）文部科学省ホームページ　大学教育部会の審議のまとめについて（素案）https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/015/attach/1318247.htm（2021/4/17 14:00 アクセス）
2）久野暢子他（2017）基礎看護技術教育での学生の学びの深まりを促す教育的介入の検討-ポートフォリオの導入-．山口医学．66(3),153-161.
3）村上大介（2019）看護学教育におけるアクティブラーニングの研究動向.東北文化学園大学看護学科紀要.8(1),19-26.
4）文部科学省ホームページ　大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会　第二次報告
看護学実習ガイドラインhttps://www.mext.go.jp/content/20200330-mxt_igaku-000006272_1.pdf
（2021/4/16 12:00 アクセス）
5）鈴木敏江（2018）アクティブラーニングをこえた看護教育を実現する－与えられた学びから意志ある学びへ，医学書院
6）文部科学省ホームページ令和元年度「全国学生調査（試行実施）」結果について https://www.mext.go.jp/content/20201218-mxt_koutou01-1421136_1.pdf（2021/10/24 23:00アクセス）
7）須藤聖子，林有学ほか（2018）看護基礎教育におけるe-ポートフォリオ学習の実践報告（第二報）-基礎看護学におけるルーブリック評価の試み－,畿央大学紀要,15(2),75-82.

8）坂田五月，佐藤道子ほか（2013）看護大学2年生におけるポートフォリオを活用した授業実践，聖隷クリストファー大学看護学部紀要，21,13-23.

2022年2月2日　受理
了徳寺大学研究紀要　第16号